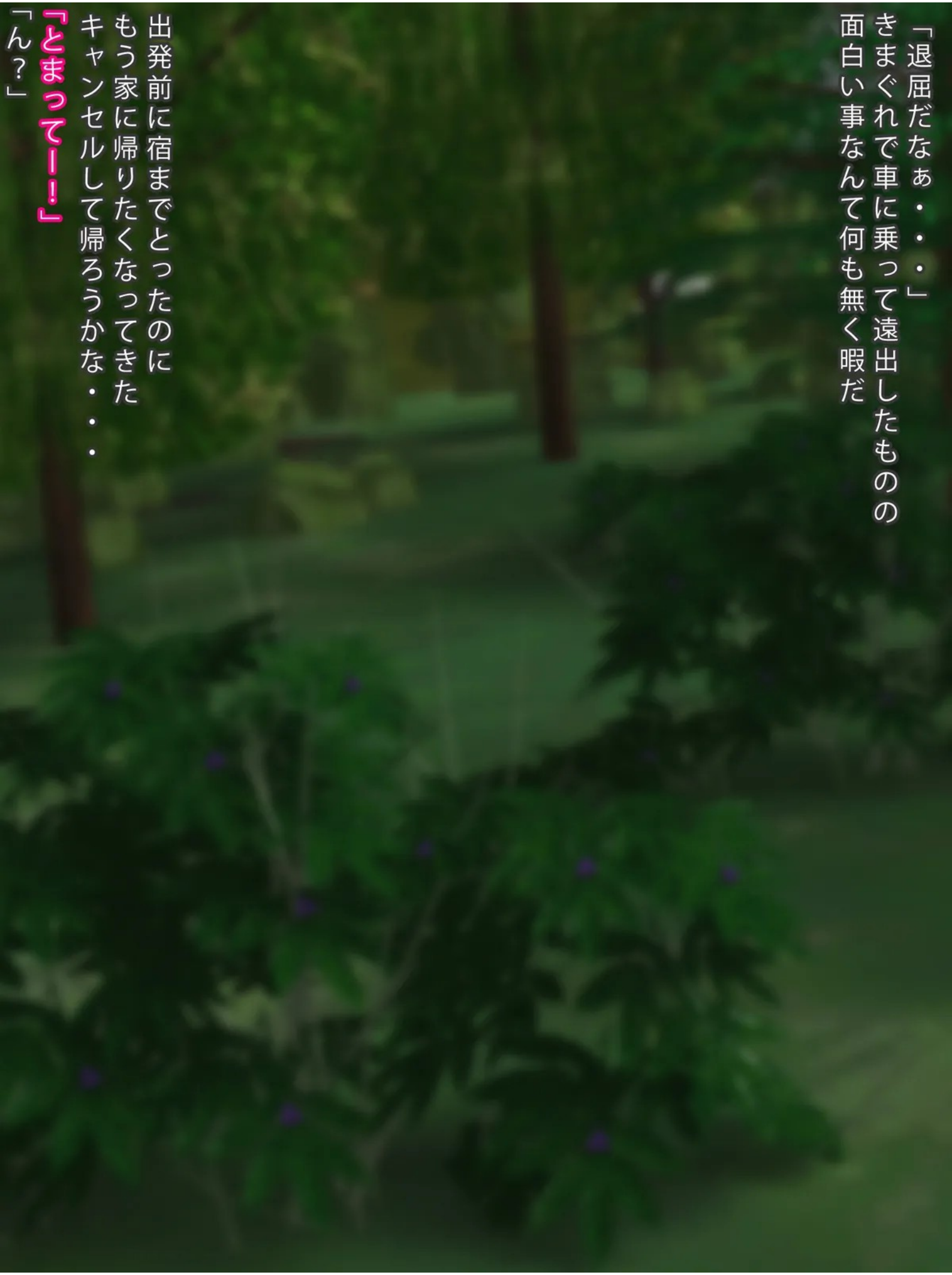
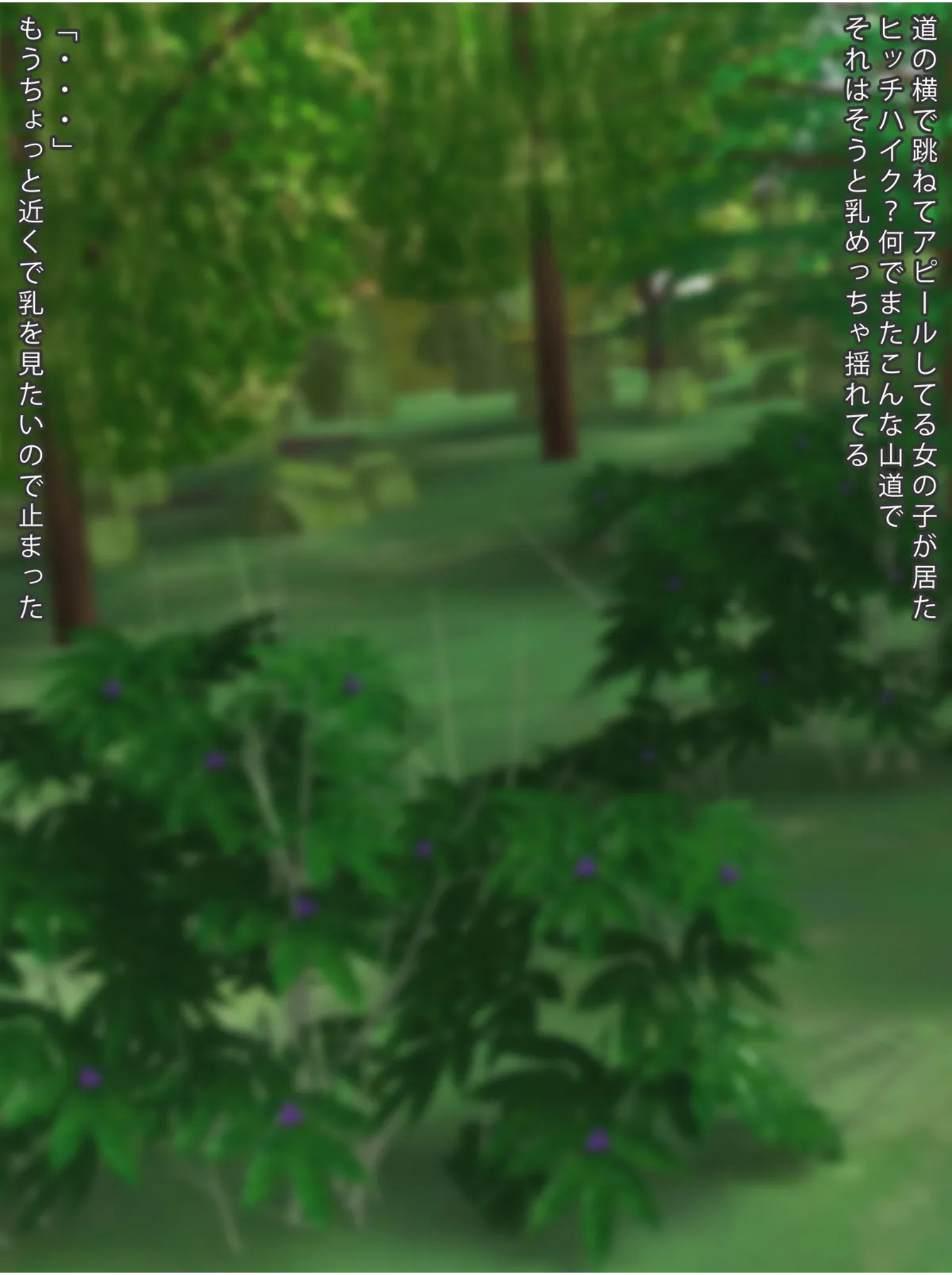


ヒッチハイクしていた女の子と行く先々でセックス三昧の旅！


「退屈だなぁ・・・」
きまぐれで車に乗って遠出したものの
面白い事なんて何も無く暇だ
出発前に宿までとったのに
もう家に帰りたくなってきた
キャンセルして帰ろうかな・・・
「とまってー！」
「ん？」


道の横で跳ねてアピールしてる女の子が居た
ヒッチハイク？何でまたこんな山道で
それはそうと乳めっちゃ揺れてる
「・・・」
もうちょっと近くで乳を見たいので止まった


「よかった～止まってくれてありがとう！」
「困った時はお互い様だよ」
（まぁ完全に下心からだけど）
「できれば〇〇町まで行きたいんだけど・・・
難しいならお兄さんが今日行くとこまで乗せて欲しいな」
「町まではちょっと遠いなぁ、うーん」


「今日は少し行った所の安いホテルに泊るけど
そこまでで良ければ行く？」
「うん！ありがとう！」
良い事をした上に女の子とドライブなんて遠出してよかった
ここからだとホテル着いたら夜か
夜の山道も危険だけど女の子一人で町を歩くのも危ないな
でもきっとひと部屋くらい空いてるだろ
さすがに一緒に泊まるだなんてそんな事は
・・・何か起こらないかな


「何から何までごめんね」
「いやいいんだよ、うん」
外は危ないし満室だったので
自分の予約した部屋に通した
もちろんベットはひとつ
「・・・・」


「お兄さん」
「は、はい！」
ニヘッ♥
「お礼をさせて♥」


ん♡
ん♡
ダパダパ
ダパダパ
ズブズブ
ズブズブ


ビクッ
ギュッ
ギュッ
ビュ
ドクッドクッ
ビクッ
ビュ


「ふぅ・・ふぅ・・汗でベタベタ」
「うん・・・すごく気持ちよかった」
「えへへ、嬉しい」
宿に入ってから数時間
今までずっと飲まず食わず
汗だくになりながらセックスし続けた
ビュー
ブポッブポッ…


後から聞いたのだが
彼女は目的地まで歩いて旅をしていた
でも一週間が経ったあたりで
かなりムラムラきていたらしい
そこでヒッチハイクをして
男を捕まえようとしたら自分がたまたま通って・・・
という事だったらしい、ラッキーだった


「こんな事まで・・・いいの？」
「いいよいいよ～♪遠慮しないで」


ボッ
ボッ
ヂュッ
ヂュル


ドプッ
ビュ～～～
ガシッ
ん？
ん？!?
ブピッ


「たくさん出たね、お疲れ様～」
（ニコニコしながら綺麗にしてくれてる）
（エロくて良い子だなぁ・・・うーん）
ナデナデ
ペロ♡
ペロペロ♡


「そういえば、町に行きたいって言ってたけどさ
やっぱりそこまで送るよ」
「えっ！？嬉しい！ありがとう！」
「う、うん」
（かわいいなぁ）
「じゃあ道中でもお礼しなきゃだね♪」
（・・・楽しい旅になりそう！）


「うわぁ！綺麗だねー」
途中に海があったので寄った
水着を持ってきていると聞いたので
本音を言うとそっちが見たくて止まった


「つめたーい！わーい」
（あーすっげぇ揺れてる・・・ありがとう海、本当にありがとう）
（やべっ、勃ってきた）
「・・・むっ！」


「んもー、まだお昼過ぎだよ？」
「あはは・・・ごめん」
「それじゃあそこの岩場でしよっか♪」


大きな岩の上に寝そべって脱がしたが
これは良い
「あ～・・・あの、あんまり見られると
ちょっと恥ずかしいかなぁ～・・・なんて」
カァー
ここ
ニ
グイッ
「んもー！さっきより勃起してるじゃん！」


ズブッ
ズブッ
あっ♡
んっ
お゛っ
タプッ
タプン
ゴリッ
ゴリッ


ブヒュ～～～…
ビクン
ドプッ
ガシッ


「ふぅ・・・途中から私も夢中で腰振って
声もたくさん出ちゃったもう恥ずかしくないや」
ふぅ〜♡
ふぅ〜♡
「もっとしよ♪」
結局夕方までヤリ続けた
今日の予定の半分も行ってないけどいっか
ゴポッ♡


次の日の昼頃
山小屋があると聞いて来たのだが
車は途中までしか行けず
しかも雨まで降ってきて
途中から山道を歩いて登ってきた
「たはは、いっぱい濡れちゃったね」


「あれ、ムラムラきちゃったの」
あん♡
「いいけどすぐしたいの？・・・まぁいっか
もういっぱい濡れちゃってるし」
（それに山小屋でエッチってなんかドキドキするし♥）
ムニッ
グリッ
ピクッ


ビクッ
ん♡
あん♡
ズッ
ズブ
ズブ


ビクン
あっ♡
ぎゅ～～……
い、
ぐぐぐ……
ビュッ
ビュビュ～～


「うわぁ・・・色んな汁でぐちゃぐちゃすごくえっちぃねコレ♥」
ふ――♥
ふ――♥
ぢポッ


服を洗って乾かしてる間に雨が止んで
その間に彼女は小屋にある地図を見ていた
「・・・むむっ！この近くに天然の温泉があるみたい！」
「すぐだから行こ行こ♪一緒に入ろう♪」
さっきまで歩いてきたのに元気だなぁ
もちろん行くけど、一緒に温泉入りたい！


最初は普通に温泉を楽しんでいたけど
それだけで終わるわけもなく
パイズリをリクエストした
「こんな感じ？大丈夫かな？」
「うん、すごく上手だよ」
（温泉で暖まったオッパイに挟まれるのすっげえ気持ち良い・・・）


ムニュ
ムニュ
ズリュ
ズリュ


ドピュ
M
わっ！
ズビュ


「うわーお胸がすごい事にところで気持ちよかった？」
うん♡
ドロー……
「すごく上手だった・・・いっぱい出た・・・」
「えへへ、良かったよー♪」


（やわらけぇ）
「あのさ・・・」
ムニムニ
「ん？お尻でしたいの？いいよ」


「わっ、わっ、これすごいよぉ！」
ズブッ
んぉ あんっ
ぉっ♡
ズブッ


ドプ
ヌッ
ビクッ
ビュルルル…


（いっぱい注がれちゃってるよぉ・・まだお腹の中に残ってる）
（お尻でエッチするのしゅごい・・・）
ブルッ
ビクビク


日が暮れて宿に泊まった
彼女と旅をしてそろそろ一週間経つが
明日中には着くだろう


んっ♡
あっ♡あぁん♡
ダメ！
ダメ！
ダメ！
ダメ！


ブビュ
ビクン
んくっ♡
んんんんん♡
ビュ…ビュ…ビュ…
ヒクヒク
ガニ股
ビクビク
ビュビュ


「ふぅ・・・ところで何で急に鏡の前でしたくなったの」
「もう目的地に着くでしょ？だから到着前夜の記念エッチ動画撮りたくて！
あとでこれ見てオナニーするの♪」
ふぅ〜♡
ピロリ〜♪
「変わってるね」
「そうかなー？」
あー・・・もう着いちゃうんだよなぁ


そろそろ目的地に着く
長かった旅も終わっちゃうんだなぁ・・・
寂しい
彼女はさっきまで道端で交尾してる犬を見て
はしゃいでたけど今はぐっすり寝てる
それにしても寝顔もかわいいなぁ
・・・よし


「起きてないよね？。。。じゃあ失礼して」
ポヨン
くかぁ～…
ポヨッ


・・・くっ、出る、抜かないと
ズブッ
ダパッ
ズブッ
ダパッ
ゴッ
ゴッ


ダメだ、中で出ちゃった！・・・でもこのまま・・・ぐぅ
ドプッ
ビュ～～～！・・・
うわ、めっちゃ絞られる・・・


「ふぅ・・・あっ、こ、これはその」
「うふふ悪い人だね～私を起こさず一人で気持ちよくなるなんて」
ヤバい、どう言い訳しよう
「よし！じゃあお外で続きしよ、ほらほら早く」
「ご、ごめ・・・うん？う、うん」
ゴポッ♡


「そういえばー」
「うん？」
「さっき道端で交尾してた犬がいたよね」
「あぁそうだね、それがどうしたの？」
んー♡
「あんな感じの本気セックスしてみない？
ガチで孕ませてやる！って感じのやつ♥」
「・・・」
ヌリュ


（あんっ、いつもより激しいかも
めっちゃちんぽガッチガチになってるし♥）
あんっ♡
んっ♡
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ



（あれ？出てるけどまだ動いてる
もしかしてこれ本気の射精じゃない？
じゃあこのあと・・・）


（んぁっ!!すごいぃ・・・
子宮の奥まで届くように射精しながら腰動かしてるぅ）
ドプッ
ビュ～～～


「もぅ・・いっぱい出し過ぎだよぉ・・
すごいこぼれちゃった・・・」
「・・・もっとしたいの？
いいよ、いっぱいしよ」
ヒクッ
ぶーーー♡
ん…ん…♡
ガクガク
ガク
ゴポッ
ドロ～～!!


その日の夜
あっ
あん♡♡
クチュ
クチュ
クチュ
クチュ


んっ♡
ンッ…ズルッ
ズニュ…ズニュ…
ヌニュ…ヌニュ…


「用事も済ませたし、今日は一晩中エッチしようね」
町に着いたらお別れかと思ってたけど
それは自分の勘違いで
彼女が町を目指した理由は
頼まれた荷物を届けに来ただけだった
その後は特に予定は無いという事で
今夜一緒の宿に泊まる事になった


「明日からどうしよっかなー」
ん――。
「そうだ！」


「お兄さんの家までついていっていい？
まだ全然お礼したりないし」
『！？』


「あー・・・すごく嬉しいけど
俺の家まで遠いよ？ヒッチハイクしてた所から
ここまでだって距離あったのに」
「むぅ、確かにずいぶん距離あるね」


「じゃあ当分楽しめるって事だね♥」
ギュ
《。。。帰り道はゆっくり走ろう》
おしまい

















































































































